

小山明子 著

気だて
気くばり
気ばたらま

リヨン社

氣だて
氣くばり
氣ばたらあ

小山明子著

リヨン社

気だて 気くばり 気ばたらき

Printed in Japan

著 者 小山明子

発 行 株式会社 リ ョ ン 社

東京都文京区音羽 1 の 21 の 11

電 話 東 京 (946) 0 0 6 7

振 替 東 京 0 - 5 4 7 2 8

発 売 株式会社 二見書房

印 刷 堀 内 印 刷

製 本 ナショナル製本

©Akiko Koyama

落丁・乱丁がありました場合は、おとりかえます。
定価はカバーに表示してあります。

ISBN4-576-88127-2

氣だて 氣くばり 氣ばたらき

まえがき

最近では、私も女優として映画やテレビや舞台にでるだけではなく、いろいろな所から、講演のお声をかけていただく機会が多くなりました。そして専門的な知識があるわけでもありませんので、ごく日常的なことから「妻として、母として、女優として」という演題でお話しさせていただいております。

その講演での話を中心にまとめて本にしてはいかがですかというお誘いがあり、こうしてエッセイ集という形で本にさせていただくことができました。

人生五十年も生きてきますと、どなたも一冊の本になるほどの体験をお持ちになっているでしょう。

私も昨年は二十五年間も一緒に暮らしていた姑を亡くし、ぽっかりと心のどこかに穴があいたようなむなしい思いをしています。家を守り、子どもたちを慈しみ育ててくれた姑の存在は、それほど大きなものでした。

私が安心して、家をあげ、テレビや舞台に集中できたのもこの姑のおかげと、今しみじみ身にしみてありがたく思っています。

子どもたちも、それぞれに個性的に、たくましく成長してくれました。

「あなたたちはママの宝もの、でも、ママが愛して共に生きる人はパパよ」と言っていたのがなつかしいこの頃です。

長男は自分の進むべき道を誰にも相談せず、すべて自分で決めて、親には事後承諾。大学三年のとき、ミシガン州立大学へ留学するときもそうでした。

就職も結婚のお相手も自分一人で決めました。

次男は、毎日洗面所でヘアードライヤーでおしゃれしてたかと思うと、ある日突然坊主にしたり、ボクはパパとママの言うとおりの大学、職業につくからなどと言って親をビックリさせてくれます。

私は生来の楽天的な性格からか、苦労を苦労と感ずることなくここまでくることができました。これも私の女優という職業を理解し、いつも無言の愛で包んでくれた主人と、「パパもママも頑張ってここまできたのだから、ボクらにお金を残すことはないよ。これから、二人で楽しむことに使ってね」と言ってくれる二人の子どもたちのおかげです。

最後に、この本を、何もできない嫁である私を大きな愛で見守ってくれた姑、私に母親とはかくあるべしの生き方をみせて若くして亡くなった母、そして今なお九十三歳の父の世話を一所懸命してくれる義母、この三人の素晴らしい明治生まれの母たちに

感謝と愛をこめてささげたいと思います。

そして、私が女優になってから終始変らず面倒をみてくれた「千葉の姑」こと三枝ハ洲子^{やへこ}さん、創造社から、ひきつづき『植物園』というプロダクションの社長で、女優としての私を守り、かげになりひなたになり私をかばってくれた、小姑の大島瑛子^{えいこ}さん、このお二人に心からお礼を言います。これからおみすてなく、よろしくね。

また、この本を出版するにあたって何度も講演を聞きに来てくださり、なかなか筆の進まぬ私をはげましてくださった北野ひろしさん、高橋愛美さんに心からお礼を申し上げます。

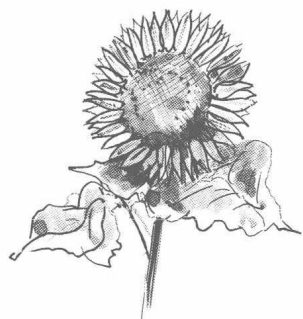
本当にありがとうございました。

一九八八年十月

小山明子

氣だて 氣くばり 氣ばたらき／目次

まえがき 2



PART 1

私は夫婦他人説 9

——だから思いやる心、本当の気くばりも生まれる

親しき仲にも礼儀あり——よい意味の我慢をしましょう
親しきことは幸せなり——私にとっての家族のかたち

PART 2

パパは何歳で芽が出たの？

51

——思わずギョッ！ わが子の氣だて？

パパのところに行ってもいいよ——子は親の鏡というけれど

猛犬注意はお互いさま？——夫・大島渚と私

83

チャーミングに生きた人——姑との思い出

105

PART 3

妻として母として女優として

121

——仕事と家庭で上手な氣くばり、氣ばたらき

一人三役、ママは大変——仕事と家庭のバランスうまくとってるつもりですが

123

女優の光と影——でも、やっぱり女優はやめられない

136

仕事場での氣くばり——独立プロで教えられた私

151

おしゃれについて——おすすめしたい着物のおしゃれ

162

PART 4

美しく老いる 171

——なんといつても心の気だてが勝負かしら

シルバー・サークルを作りましょう——私の交遊録 173
「一怒一老」の教え——こころの美容をいたしましょう 187

PART 5

がんこな父そして母の思い出 205

——私を育んだ愛、ありがとう

母の思い出——心のマドンナ 207
わが父——がんこでけんかもするけれど 217
ビバ！ブラジル——父の第二のふるさと 231

本文イラスト 岡村貞樹

PART 1

私は夫婦他人説

——だから思いやる心、本当の気くばりも生まれる



親しき仲にも礼儀あり——よい意味の我慢をしましょう

出会って、そして……

人の出会いとは、本当に不思議なものです。

誰もがそう想い、感じているのではないのでしょうか……。

私自身、そして、夫や息子たちも、いろいろな人との出会いによって彩^{いろど}られた人生を送っていることはまちがいありません。

夫である大島渚との出会いは、私の女性としての人生のウェイトが大きくかかった出会いでした。

現在、妻、母、女優という三役をこなす私は、映画監督と女優の「職場結婚」だったことが幸いし、現在もなんとか現役でやっていけることに感謝して

いるのです。

そもそも私たちふたりの最初の出会いは、助監督と映画に出演する女優という、この業界においてはごくあたりまえのものでした。その後、また同じ撮影所で二度めの出会いがあり、それからふたりの交際が自然に始まりました。

その当時、私は父親の反対を押しきって映画界入りしたものの、ずっと女優をやっていたという気持ちはまったくありませんでした。ですから、一本目のデビュー作品、『ママ横をむいて』だけでやめようと自分では決めていました。

ところが、すでに松竹側では私の次の作品の準備を進めていました。私はそのまま『新婚白書』という二本目の映画をやることになり、流れのまま女優を続けていくことになったのでした。

それが運命の分かれめだったのです。

というのも、私と大島が出会ったのは、この二本目の映画でしたから、私がああとき本気で一本でやめていたら、私たちの今日はなかったということにな

ります。

そして、京都の撮影所で撮っていた三本目の映画『稚子の剣法』で交際が始まりました。まあ交際と言ってもおおげさなものではなく、彼のことをお兄さんという感じで思っていた程度でした。

少しキザで、素敵な手紙

その頃の大島は、うっそうとした撮影所ではめずらしいスーツ姿でしたので、すから、いちはやく目にとまりました。そして私はそんな彼に少しばかり好感が持てたのです。

撮影所にスーツ姿でくるような人ですから、交際が始まってからのアプローチも、まるで外国映画にでも出てくるような、少しばかりキザで素敵な手紙でした。数日おきに必ず届く手紙でしたから、当時二十歳そこそこの女の子の私にとってみれば、それは支えになりましたし、まるで夢のようでした。

私が女優ということもあり、デートもこっそり人目を忍んでしなければなら

なかったので、行きつけの喫茶店でコーヒーを飲みながらお話するというかわいいものでした。

たしか、『演劇の鬼』という本を、彼からプレゼントされたのが、そもそもの始まりだったと思います。

初めてのデートらしいデートは、夏に琵琶湖へ行き、それから、京都の南禅寺で湯どうふを食べるといふ、なんとなく、今はやりの旅気分グルメデートという感じとも言えますでしょうか。

そして、行きつけの喫茶店の名前といえば、「再会」と、ややできすぎですが……。

そんな風に、ちょっぴりロマンチックなおつきあいを続け、幸せそうなふたりでした。

その頃はいまとちがって映画女優というだけで、なにかと目立つ存在でしたから、本当にささやかなデートしかできなかったのです。そこで、手紙が私たちにとって最善の絆を深める鍵となったのです。